

国防は最大の
福祉である
初代会長 故 高橋季義



國の支え

(故中井信夫元大阪府議会議長・95才)

関西防衛を支える会
(略称・関防会)
〒542-0081
大阪市中央区南船場3-11-10
心斎橋大陽ビル7階
TEL 06-6241-1124
発行人 濱野晃吉
編集人 新川貞敏
印刷所 (株)新聞印刷

第59号
(夏季号)
平成26年7月1日(火)
(皇紀2674年)
(大正紀元103年)
(昭和紀元89年)



前列左から角南中部方面幕僚長、三木呉総監、濱野会長、志方教授、西村代議士
後列左から高島阪基司令、三宅代議士、田母神元空幕長、大塚大阪地本長、大道副会長

第17回

定期総会を開催

平成26年4月20日
ホテル・グランヴィア大阪



本日は関西防衛を支える会、第17回定期総会にご出席いただき誠にありがとうございます。席上、濱野会長が「我が国の防衛と安全保障」をテーマに、現在の防衛情勢や、我が国の防衛力増強の必要性、また、防衛費の増大に伴う国民の理解の重要性などについて、熱いご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、世界経済が低迷し、米国経済も今年2月デフォルトを回避したが、以前と異なり「財政の崖」に立っている。米国は平成12年から掘り始めたシェールガスが平成18年に実用化され、現在、電気料金は1kW6円である。米国国内で製造するコスト減となることから、中国の人工費上昇もあり、中国から米国本土に工場を移している。まさに米国の製造業復活である。今後1万箇所を掘る計画であるが、シェールガスを掘削するシームレスパイプを作る企業は世界で1社しかない。

国防意識高めよ

会長 濱野 晃吉

い日本の企業である。また、シェールガスを保管するタンクも炭素繊維で作られるが、これも日本企業で占められている。工事をすすめる世界一大きなタイヤも日本企業であり、建設、土木関係重機の需要も生まれている。

低迷している。空気汚染も深刻であり、物価も高騰し、経済格差が広がり、暴動が多発している。中国はこれら国内問題から目をそらすため、反日姿勢を二層強めている。中国は平成4年「領海法」を制定し、尖閣諸島を中国の領土とした。平成22年には「国防動員法」を施行させ、尖閣諸島は中国の核心的利益であると発表した。平成25年には「防空識別圏」を制定し、尖閣上空を中国の領空の如く振舞っている。実はこの防空識別圏設定はオバマ大統領の演説が原因である。

とれる。そこで、中国が間違わないよう本年4月8日ヘーゲル米国防長官が中国に行き、「沖縄県尖閣諸島をめぐる、日米安保条約に基づき日本防衛義務を果たす」旨伝えたのである。これに対し、中国の常万国防省が対日戦争辞せずと表明した。

昨年、中国機に対する我が国のスクランブル発進は年間415回と過去最多となった。また領海侵犯は数えきれない。中国は年内に核弾道ミサイル搭載の潜水艦を海洋配備し、10年先には60〜70隻を保有すると証言した。10年後は中国が大量の通常兵器と核兵器を保有する一方、米国の軍事力は軍事費が削減され着実に弱体化する。我が国は未曾有の危機を迎えている。

本日は元北方方面総監の志方俊之先生に「大丈夫か、わが国の危機管理」をテーマに講演をして頂く事にしております。志方先生は軍政、軍学ともに極められた方であり、その貴重なお話を伺えると思います。我々は講演内容をしっかりと聞いて、弊会の活動に生かしてまいりたいと思っております。

今後とも弊会の活動に皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。本日はご出席頂き誠に有難うございました。

そして、数年後にはシェールガスが日本に輸出される。すでに日本の造船会社に液化ガス輸送船舶の注文が相次いでいる。液化ガス輸送タンクは特殊なアルミ製であることから日本のアルミ会社も忙しくなる。シェールガスは副産物として高濃度の水素が取り、そこから水素の燃料電池が作られ、自動車もEVから水素で走る燃料電池車に進化する可能性が大である。その燃料電池も水素自動車も日本企業が世界一である。この様に、今後、日本と米国経済は揚場である。素晴らしいエネルギーがメタンハイドレートである。日本の領海にはこのメタンハイドレートが大量に埋蔵されている。シェールガスは160年分と言われるのに対し、火山と海水があれば無尽蔵に生成される夢の資源である。さらに、沖ノ島島にレアメタルも埋蔵されており、日本の将来は希望に溢れている。

オバマ大統領は昨年秋、シリアのアサド政権が化学兵器を使用したとして、軍事攻撃を宣言しながら取り止め、ロシアの仲介に依存してしまい、おまけに「米国は世界の警察官ではない」と演説した。オバマ大統領弱しとみたロシアはウクライナからクリミア半島を盗り、ロシアに併合した。中国は尖閣諸島を含む東シナ海上空に「防空識別圏」を設定した。

クリミア半島をロシアに併合されたウクライナは、ソ連解体当時、1900発の核弾頭を保有していた。アメリカ、イギリス、ロシアはこの核弾頭をロシアに核弾道ミサイル搭載の潜水艦を海洋配備し、10年先には60〜70隻を保有すると証言した。10年後は中国が大量の通常兵器と核兵器を保有する一方、米国の軍事力は軍事費が削減され着実に弱体化する。我が国は未曾有の危機を迎えている。

本日は元北方方面総監の志方俊之先生に「大丈夫か、わが国の危機管理」をテーマに講演をして頂く事にしております。志方先生は軍政、軍学ともに極められた方であり、その貴重なお話を伺えると思います。我々は講演内容をしっかりと聞いて、弊会の活動に生かしてまいりたいと思っております。

今後とも弊会の活動に皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。本日はご出席頂き誠に有難うございました。

第2回カラオケ大会のご案内

期日 平成26年8月24日(日曜日)
午前11時 開会
会場 悠遊館・大阪日本橋
電話 06-6214-1514
(道頓堀東詰橋から北へ信号3ヶ目・約200M・グラストンビル10階)
要綱 1、観客(応援者・ギャラリ) 3000円
2、出場者 5000円
#募集人員50名(先着順)
#軍歌など歌詞の長いものは3番までとする
#飲み放題、食べ放題で暑気払い懇親会を兼ねます
申し込 関西防衛を支える会
FAX 06-4302-5187
*締め切8月10日
FAXで住所、氏名、電話番号と歌の「題名」を明記して8月10日までに上記FAXへ送信して下さい

第50回 関防会の歴史勉強会 中島サロンのご案内

日時 平成26年8月23日(土曜日)午後4時から
講師 竹本 美保氏(大阪府立狭山高校校長・元海上自衛隊一等海佐)
奈良女子大から海上自衛隊幹部候補生学校入校、厳しい訓練を経て海軍大佐(一等海佐)に昇進。定年を迎え公衆校長に就任。
演題 自衛官から高校々長へ
自衛隊組織から教育現場へ転身して3年目を迎える氏に、その感想を存分に語ってまいります。
会場 錦城閣 ☎06-6941-2185
地下鉄谷町線、京阪電車天満橋駅直上
キャッスルホテル3F(中国料理店)

第51回 関防会の歴史勉強会 中島サロンのご案内

日時 平成26年10月18日(土曜日)午後4時から
講師 梶谷 万里子氏(県土・竹島を守る会事務局長)
子育てが終わり、ゆっくりと生活する主婦が義憤に駆られて立ち上がり、竹島奪還運動を始めて10年
演題 「竹島奪還運動」の経緯
日本固有の領土である竹島の歴史と奪還運動の報告
会費 5,000円(含む飲食代)
40才未満は3,000円(含む飲食代)
学生は2,000円(含む飲食代)

第17回定時総会

特別講演 要旨

4月20日

紹介を頂きました志方です。今日は関西防衛を支える会の総会にこんなに多くの現役の方(陸海空自衛隊の将官)が参加されているとも知らず、学生に聞かせるスライドを持って参りました。そんな馬鹿な事と思われると思いますが、今大ではこのようなスライドを使って、19才、20才の青年に何故日本の国は日本の青年が守らなければならぬいかと、たったそれだけの事を教える訳です。

教える事はただ一つ。アメリカが日本を守ってくれていると思ふな、そこから始まるのです。学生は先生は自衛隊にいたのでしよう、そんな事を云っていいんですかと云うから、20年前に云ったら鹹たろうな、と答えます。君達、アメリカの青年が日本の為を命を投げ捨てるか、君達はアメリカの為に死ぬるか、と言うと本当に云うと、なるんです。そのような問答の授業をしていますが本日持参したスライドは、サブリーミナル(副り込み)効果ですね。今の学生はほとんどノートを取らせませんし、聞いてはいるだけなんです。



講演中の志方教授

私は法学部の教授をやっています。元々は流体力学の専門家です。超高速流体というのをやっています。偏微分方程式などを一生懸命、当時はコンピュータ

20年かかる防衛力整備

私はこの間の民主党政権のとき防衛大臣補佐官をやっていた。東京都の石原知事からも災害対策担当参事と任命されました。与に任命されていまして、皆さんご存じの民主党の田中防衛大臣と石原知事は全く違うパーソナリティですから、防衛省と都庁の間の移動10分間で頭を切り替えるのが大変でした。今

これは大体内で起きる。次は5年から10年の間で中期的な時間軸ですが、これは防衛力を整備する時間がない。大体防衛力整備は20年かかるといわれます。2025年くらいまで見えて来た時代ですね。中国のGDPが日本を抜いた、いわゆるパワーシフトの時代が来る。我々が今やろうとしているのは次なる時代に備えて防衛力を整備する軸が必要になります。切迫するかもしれない脅威、中国と云う国が今後どのような変化するか、変な国になれば脅威になります。

不確実性、いわゆる模索の時代ですね、2001年の9・11以降対テロの時代が来ます。そして現時点では2025年くらいまで見えて来た時代ですね。中国のGDPが日本を抜いた、いわゆるパワーシフトの時代が来る。我々が今やろうとしているのは次なる時代に備えて防衛力を整備する軸が必要になります。切迫するかもしれない脅威、中国と云う国が今後どのような変化するか、変な国になれば脅威になります。

た鉄砲をもって来るのか分りません。おそらく米軍は来てくれません。私は自衛隊に35年間勤務し、一生懸命に日米共同訓練に励みましたが、一日たりともアメリカの兵隊が日本のために死んでくれると思った日はありませんでした。私はアメリカの大学も出ましたしアメリカ軍を知っているけれど、米兵が日本の為に命を落としてくれるなんて考えないほうが、期待しない方が良いでしょう。

ミサイルをもって来る、ステルス飛行機も持っている。我々は人類が経験したことのない、未知の世界に生きています。と云う事を考えなければなりません。経済学者が色々予測していますが、2040年ごろには中国がGDPでアメリカを抜く、でインドがその後を追っている。だからG7は過去のものだ、世界に影響力を発揮できる国は無い、パワーシフトの時代だと云う。総括すると新興大国ですね、ブラジルが大きく、なっても日本には関係ないです。ロシアと中国、インドがかなり大きな発言力を持つ時代が出てくる、だから

る法律とか体制組織が後付けになる。その間にいろいろな犯罪が起り、戦争の道具にもなる。三つのシフトが同時進行で起こっているから相当な政治家が出てこないというリーダーシップが執れない。私は20世紀よりも21世紀の方が難しい時代で本当に良いリーダーを選ばなければ駄目だと思えます。

アメリカはリ・バランス(再構築)と言ってアジア重視だと言っているが、G20会議にも出てこれなかった。それにおかしいのはオバマ大統領夫人が一人で中国に行つて文化交流と云うのをやるのです。ヘーゲル國務長官と云うのは中国通です。おかしな事、強い相手には弱く出る、弱い者には強く出る、と云う事。強い相手には弱く出る、弱い者には強く出る、と云う事。強い相手には弱く出る、弱い者には強く出る、と云う事。

は中国の領土だと宣言して三沙市と云う領土を作りこの海域に入つてくる漁船を捕まえる。核心的利益である。と云うてウエトナムやフィリピンを漁船を捕まえて船は没収、罰金を払った。漁民は返す、そういう事をやっています。尖閣諸島も彼らは中国の領土で核心的利益と云っています。しかし日本の漁船を捕まえた事はないですね。それは孫子の兵法です、強い者には弱く出る、弱い者には強く出る、と云う事。強い相手には弱く出る、弱い者には強く出る、と云う事。

大丈夫か！我が国の危機管理

帝京大学法学部教授 志方 俊之 (防大2期)

安倍政権になって色々やっていますが、反対政党は議論を尽くせ、辞任しろなどと言っていますが50年間議論をしてきたのにまだ議論が必要なのかと云う思っています。

学生に教えるとき、我々は脅威を感じる時は時間軸で考える。今日起こってもおかしくないもの、これには大規模災害や大規模事故、大規模テロなどがある。

目無し(な対応をする、時代が変わってきていますから自衛隊だって難しいのです。これをやれと云われれば自衛隊は出来るのです。が、ちょっと待てと云う事になれば対応が遅れます。最近の若者はあんまり日教組の影響を受けていませんから、ふんふん、と頷くのです。映画「永遠の0」なんて皆観にいきますから、感想を聞くと、良かった良かったとか解らないとか云っています。

オスマントルコ、短期間ですがナポレオンも帝国でした。大英帝国もかなり続いたのですが、イギリスはたの国です。大日本帝国も結局は潰れている。ソ連という大国も70年で自己崩壊した。いま世界をアメリカ帝国と中華帝国が二分しようとしています。アメリカは民主主義の国ですが、壊れにくいところがありません。が中華帝国は自壊作用を起すかも知れない。すべての帝国は自己崩壊している事。中華帝国は今の政治体制を直さなければ危ない云う時代になります。

多極化しているのは間違いないですね。それとパラダイムシフト(思考の枠組み)これは統治体制が崩れてくる。独裁体制が崩れてくる、例えばアラブの春なんかはそうです。エジプトは民主化民主化だと云っているけど、やはり軍が出てくる、そういう具合に体制が変換して行くわけですが、その時に大きな騒動を伴う事象が起きます。次に技術の進歩に人間社会が追いつけない、暗号をかけたソフトが駄目となる、と云うやつが良いのか解らない、要するに技術の進歩に人間の知恵が及ばない。だから技術だけがどんどん進歩してこれを制御する

アメリカには大統領戦争権限法と云うのがあって60日間軍隊を使う事ができるのです。この宝力を振り上げただけで世界は黙ってきたのです。出兵して議院が駄目だと言ったら兵を引くわけです。ウエトナム戦争では、権限法がなくて最終的に50万の軍隊を出したので、大統領戦争権限法はウエトナム戦争拡大の反省として出来ましたが、宝力がありながらロシアを見捨てました。

問題は南シナ海ですね、南沙、西沙、中沙と云うのは中国の領土だと宣言して三沙市と云う領土を作りこの海域に入つてくる漁船を捕まえる。核心的利益である。と云うてウエトナムやフィリピンを漁船を捕まえて船は没収、罰金を払った。漁民は返す、そういう事をやっています。尖閣諸島も彼らは中国の領土で核心的利益と云っています。しかし日本の漁船を捕まえた事はないですね。それは孫子の兵法です、強い者には弱く出る、弱い者には強く出る、と云う事。強い相手には弱く出る、弱い者には強く出る、と云う事。

日本が生き残るために、問題は南シナ海ですね、南沙、西沙、中沙と云うのは中国の領土だと宣言して三沙市と云う領土を作りこの海域に入つてくる漁船を捕まえる。核心的利益である。と云うてウエトナムやフィリピンを漁船を捕まえて船は没収、罰金を払った。漁民は返す、そういう事をやっています。尖閣諸島も彼らは中国の領土で核心的利益と云っています。しかし日本の漁船を捕まえた事はないですね。それは孫子の兵法です、強い者には弱く出る、弱い者には強く出る、と云う事。

関防会歴史勉強会

中島サロンの第49回 6月21日

【1】三大歴史捏造事件

本日の朝刊の一面には「河野談話」を検証する報告書に関する見出しが踊っていました。読売、毎日、「文芸調整」があったことを取りあげ、産経は「強制連行」河野氏の独断と踏み込んでいきました。慰安婦に聞き取り調査する前に談話の原案が出来上がっており、聞き取り調査は、儀式にすぎなかったというのです。火付け役だった朝日が、「河野談話」はもとと政治文書なのだから調査が杜撰でも正当性は揺らがないと強がってみせていたのが笑えました。

ところで、米国のグレンデル市に性奴隷にされた朝鮮人女性20万人を象徴する少女像が設置されたことで再び火がついた従軍慰安婦問題。事実から遠くかけ離れた歴史の捏造が日本人の心を傷つけ、貶めています。思うに、この問題は、そもそも在日朝鮮人が強制連行されてきた被害者の子孫という根柢のない神話の延長上に作られたものです。在日の強制連行が事実なら、慰安婦が強制連行されても何の不思議もありません。嘘は元から絶たなければだめなのです。

ところで、日本には従軍慰安婦の外にも、組織的な人権侵害に関わる捏造された歴史認識問題を抱えています。その一つは、南京大虐殺です。2人の将校が南京城周辺で人斬りを競ったという荒唐無稽な「百人斬り」の嘘のエピソードが付随していました。南京の虐殺記念館は入口に犠牲者数30万人を掲げ、「百人斬り」の嘘を展示しているようですが、この記念館は日本社会党の田辺誠一委員長が中国に進言して作らせたといういわくつきのものでもした。

そしてもう一つが、今日これからお話しする沖縄は慶良間諸島での住民集団自決に関する軍命捏造事件です。

【2】戦後民主主義の図式

これらの3つの歴史問題に共通するのは、いずれも戦後民主主義がその正当性を主張するステレオタイプな「図式」をなぞっていることです。「残虐非道な日本軍」がそれです。戦前の日本と軍隊を徹底的に貶め、日本人から戦前を切離し、日本人としてのアイデンティティを剥奪するための反日イデオロギーです。それゆえ、その図式や大歴史問題に疑問を呈する者に対し、極右のレッテルと激しい人格非難が浴びせられました。朝日新聞、日教組、弁護士会などがその代表格です。

ところが、このところ、この状況が大きく変わっています。ネット言論です。これまでマスメディアが排除してきた言論がネット上で展開され、ネットでは、むしろ反日イデオロギーによる歴史の捏造に対する批判のほう

【3】沖縄集団自決冤罪訴訟

いよいよ大歴史捏造の最後、沖縄集団自決の軍命令説のごをお話しします。

沖縄の慶良間諸島では、米軍が上陸作戦を敢行した昭和20年3月末頃、座間味島で234名、渡嘉敷島では



「援護金」が給付され、荒廃

崩壊した軍命令説

内なる日本を取り戻すこと、沖縄の人々を取り戻すこと

弁護士 徳永 信一 (55才)

しかし、平和勢力や進歩派陣営は「軍は住民を守らない」の図式を守るために、軍命令説を保守しました。そして遂に教科書にも軍に強制された集団自決のことが掲載されるようになったのでした。

平成17年8月、元隊長の梅澤裕さんと赤松嘉次さんの弟・赤松秀一さんが原告となって大江健三郎の岩波新書「沖縄ノート」を訴えました。それは非常な軍命を罪の巨塊」とたとえ、鬼畜のごとく罵るものでした。

絶対の自身をもって挑んだ裁判でしたが、思わぬ展開をたどりました。平成19年春、次年度から使われる教科書の検定が行われ、全ての教科書から軍命令説が削除されたのです。裁判がきっかけとなって糾されました。

それは裁判目的の足早い達成でしたが、同時に、反対勢力による猛反発を呼び起こしました。沖縄の反対運動は大いに盛り上がり、議会は次々と反対決議をあげ、市民による11万人反対集会が挙行されました。実際は組合の動員によるもので参加者はせいぜい2万人程度だったのですが、沖縄のメディアは勢いづいて反対一色になり、本土のマスコミにも伝染していききました。沖縄の人々は真相を知っているはずだと思いついて私たちが少なからずショックを受けました。そんな空気が影響したのでしょう。平成20年3月、軍命令説を信じることに相当な

「しかし、平和勢力や進歩派陣営は「軍は住民を守らない」の図式を守るために、軍命令説を保守しました。そして遂に教科書にも軍に強制された集団自決のことが掲載されるようになったのでした。

平成17年8月、元隊長の梅澤裕さんと赤松嘉次さんの弟・赤松秀一さんが原告となって大江健三郎の岩波新書「沖縄ノート」を訴えました。それは非常な軍命を罪の巨塊」とたとえ、鬼畜のごとく罵るものでした。

絶対の自身をもって挑んだ裁判でしたが、思わぬ展開をたどりました。平成19年春、次年度から使われる教科書の検定が行われ、全ての教科書から軍命令説が削除されたのです。裁判がきっかけとなって糾されました。

それは裁判目的の足早い達成でしたが、同時に、反対勢力による猛反発を呼び起こしました。沖縄の反対運動は大いに盛り上がり、議会は次々と反対決議をあげ、市民による11万人反対集会が挙行されました。実際は組合の動員によるもので参加者はせいぜい2万人程度だったのですが、沖縄のメディアは勢いづいて反対一色になり、本土のマスコミにも伝染していききました。沖縄の人々は真相を知っているはずだと思いついて私たちが少なからずショックを受けました。そんな空気が影響したのでしょう。平成20年3月、軍命令説を信じることに相当な



前左から柳澤大阪護国神社宮司、小寺元大阪弁護士会会長 徳永弁護士、濱野会長、大道副会長



根柢があるとするまじかの敗訴判決を喰らいました。

ところが、一審判決が頼りにしていた政府見解につき日本史小委員会が「直接の軍命令を示す根柢は確認できない」とする報告書を出したことで、私たちは控訴審での逆転判決が出ることを信じて疑いませんでした。しかし、平成20年11月に下された控訴審判決は再びの敗訴でした。しかし、その理由は「一番とは全く違ふものでした。軍命令の事実にかかる「真実性の証明はあるとはいえない

い」としたうえで、「沖縄ノート」が発行された当時(昭和45年)には軍命を真実だと信じる相当の理由があり、そうである以上、その後真実性が揺らいでも直ちに違法とはならず、虚偽であることが明白になったときにはじめて違法になるという新しい枠組みを示したのでした。私たちが、軍命令が真実ではないことは証明できたのですが、明らかに虚偽であることまでを裁判所に認めさせることはできなかったというのです。上告は、平成23年5月に棄却され、控訴審判決が確定しました。

虚偽によって梅澤さんたちの名誉を棄損した責任を問うことはできませんでしたが、軍命令が「真実性の証明がない」ものであることは勝ち取れました。やがて沖縄の人々も真実を受け入れるだろうと信じていました。

ところが、そうはいきませんでした。沖縄を支配するマスメディアは判決後も集団自決が軍命令による強制だったという嘘を垂れ流し続け、沖縄の人々を洗脳し続けました。そもそも、裁判で軍命令が「明白な虚偽」だと認められなかったのも沖縄のマスメディアによる虚偽宣伝のせいでした。

【4】琉球新報論議訴訟

普天間基地移設問題と尖閣列島問題を抱える沖縄の言論界は、「沖縄タイムス」と「琉球新報」という2つの左翼的傾向の強い地元紙に席捲されていることをご存知でしょうか。彼らは沖縄の世論を支配していると自負しています。沖縄の新聞やTVをみていると沖縄の人は皆基地の辺野移転やオスプレイ配備に反対しているように錯覚しますが、決してそんなことはありません。沖縄のメディアは、あえて反対意見を取りあげないのです。その偏向振りは徹底しています。沖縄の特徴として大勢の個を従わせる「同調圧力」が指摘されますが、それを強化しているのが沖縄のメディアです。彼らに逆らうと

議員は辞職や落選に追い込まれ、学者は大学を追われ、作家は発表の場を失うのです。

その沖縄のメディアの1つ琉球新報に叛旗を翻したのが、沖縄屈指のドキュメンタリー作家上原正樹さんでした。

上原さんは、これまで沖縄戦の真実を掘り下げるドキュメンタリーを「琉球新報」と「沖縄タイムス」に何度も長期連載してきました。アメリカ公文書館に通って沖縄戦

の資料を発掘し、集団自決の生き残りの人々から直接聞き取りして、それが軍命による強制ではなかったことを確信していました。沖縄人は梅澤さんと赤松さんに感謝してお詫びしなければならぬというのが持論です。当時「パンドラの箱を開ける時」という連載を持っていました。いよいよ集団自決の真相に焦点をあてた第3章「慶良間で何が起きたのか」がはじまる時、琉球新報は「社の方針に反する」として原稿の掲載を拒否したので

す。当時、まるで集団ヒステリーのような軍命キャンペーンの嵐が吹き荒れていたときです。琉球新報に冷や水を浴びせるような原稿が掲載されていたら、キャンペーンも腰砕けになっていたでしょう。

連載が再開されたのは4カ月後、でっ上げの「11万人人反対集会」のあとのことでした。再開後の内容は集団自決とは関係のないものになりましたが、上原さんは最後の最後で物書きの意地をみせます。181話の最終回は、集団自決が軍命令によるものでなかったことを生き残りの証言をもとに論証し、「二日も早く沖縄の人々にも理解して頂き、私たちが島民が心を合わせて共に戦ったように次の世代が憎しみ合うことなく本土の人たちと仲良くやってゆけることを祈ってやみません」という赤松元隊長が島民に送った手紙を紹介し、「パンドラの箱に残ったもの、それは人間の真実だ」と結ばれています。しかし、これも掲載拒否されたのです。

掲載拒否は作家に対する最大の侮辱です。上原さんは「パンドラの箱」の連載によって果敢ととした梅澤さんたちの濡れ衣を法廷で晴らし、併せて沖縄の言論空間を歪ませる琉球新報の高慢を叩くべく、訴訟を提起しました。平成23年1月のことでした。

裁判では、琉球新報は、上原さんの原稿を掲載しなかったのは、社の方針という政治的理由ではなく、それが従来掲載した原稿の焼き直しだったなどという作家を馬鹿にした理由をでっちあげてきました。それは新聞人としての良心を疑わせる酷い嘘でした。しかし、結果的にその嘘が琉球新報の墓穴を掘ることになりました。

一審判決は、琉球新報のでっちあげを真に受けた判決でした。実に情けない思いをしましたが、それだけに控訴審で逆転勝訴を獲得したときの喜びは大きかったです。

上原さんは、この判決で軍命令説は崩壊し、梅澤さんと赤松さんの名誉は回復されたと宣言しました。軍命令説の正当性は琉球新報をはじめとする沖縄メディアの言論統制が支えていたことが白日の下に晒されたからです。人々は知ったのです。「王様は裸だ」と。

【5】内なる日本人を取り戻すこと

軍命令説の嘘を広めてしまったのは、私たち日本人の心の病が原因です。先人の心との繋がりを持たされず、断絶させられてきたからでした。2つの裁判を通して、私はそのことが痛いほど分かりました。敗北した戦争の記憶と日本国憲法が高い壁となって立ちました。かつての日本人は残虐なレイシストであり、非民主的な軍国主義者であり、人命軽視のロボットだと教え込まれてきました。敗戦によって授けられた憲法によって、日本人はやがて人間になったとも教えられてきました。しかし戦時下と人間も島民も私たちと同じ、人間であり、日本人としての連続性を信じていることができれば、軍命令説が虚構であることは、誰にだって分かります。なぜ、沖縄で集団自決が起こったのか、なぜ、軍命令説が唱えられたのか、そのことが日本人のアイデンティティを回復するということであり、沖縄人を取り戻すことなのです。そして、そのことが、本当の意味において梅澤さんと赤松さんの名誉を回復するということなのです。

満洲国軍官学校回想

満洲国軍五族之墓奉賛会会長 後藤 文夫

今、NHKで大河ドラマ「軍師・官兵衛」が放映されて人気を博しています。彼の号は「如水」であり、水五訓という次のような文を遺しているのを存知だろうか。

- 一、自ら活動して他を動かさむるは水なり
- 二、常に己の進路を求めて止まざるは水なり
- 三、障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり
- 四、自ら潔らかにして他の汚れを洗い清濁併せ容れる量あるは水なり
- 五、洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と交じ霧と化し疑っては玲瓏かる鏡となり而もその性を失わざるは水なり

彼は水のようにありたいと念じて「如水」と号したと思われる。このような立場に立ってドラマを鑑賞すれば、また一味違ったものになるものと思えます。

因に、この水五訓は敬愛する福岡隊長(軍官一期生)が自衛隊退官後の勤務先事務室に掛けられていました。先輩諸賢は言語風習の異なる異民族の上司、同僚、部下と起居寝食をともにしながら、五族共和の理想郷、王道楽土建設に向けて粉骨砕身、努力を傾注され、その実はずっと効果も上げつつありました。それが昭和20年8月8日、国際法無視のソ連軍(ロシア)の満洲進攻によって瓦解の止む無きにいたりました。それに続く地獄絵図の如き状況は筆舌に尽くすことが出来ません。

同じ日の長崎原爆投下の回顧紙面はあっても、満洲国の崩壊、続く在満邦人の苦難、60万のソ連抑留等については不幸にして眼にしません。忘却の彼方に埋没されようとしています。先輩諸賢の業績を願う我々にとって切歯扼腕の限りです。今春になってNHKのBSプレミアムが「満洲国軍・五族の旗の下に」

と題して70分の放映がありました。ピンと外れの内容で隔靴搔痒の感があります。NHKが取り上げたことに意義があるものと存じます。

閑話休題

隣国との関係がギクシャクしてあります。伊藤博文公暗殺の犯人・安重根記念館が習主席主導で開館、チベットや東キリギスの独立運動を弾圧している中国としては、全く矛盾した行動としか考えられません。

また、慰安婦問題についても、松永のおばあちゃんが若い頃、駐屯地(軍官学校)の近くに慰安所がありその女性がよく縫い物等を依頼に来て親しくなり、ここへ来た理由について尋ねると、家が貧しかったので自分から…。連行が皆無とは言えないけれども…と話していました。

あれやこれやを考えると日本は言論戦で全くとってよいほど無力・敗戦続きの状態。これには日本の一部メディアも加担していると思えません。敗戦後、駐留軍の為に慰安施設がつくられたのは紛れもない事実。私が新米教師の時代、現在の大阪市立大学のキャンパスは米軍キャンプだった。朝出勤すると、教室に使用済みの用具が放置されていることがあった。彼等らしてみれば触れられたくないタブーであろうが事実は事実、なぜ真実を報じないのか？

それに日本海を東海に、慰安婦像設置のロビー活動等々連戦連敗。目も当てられません。興安嶺の山々に眠る先輩諸賢に申し訳なく、ここまで書いて血圧急上昇、この辺で止めます。

＊後藤文夫氏は軍官学校(士官学校)の7期生で在学中の17才でシベリアに連行抑留され3年間の苛酷な労働に従事された。帰国後大学で教職免許を取得、浪速高校(市立大学の隣)で数学の教諭として定年まで勤務。

五族の墓慰霊大祭

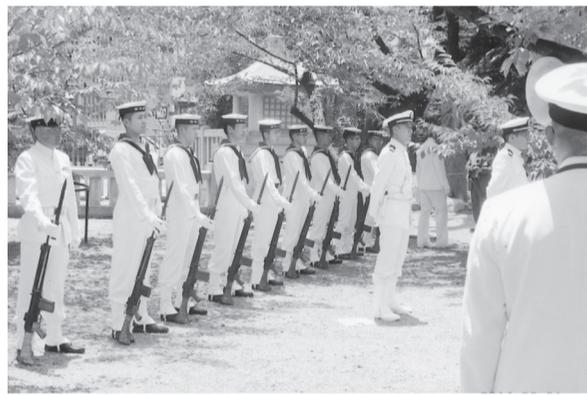
期 日 8月24日(日曜日)
11:00 開始 12:00 終了

会 場 高野山・五族の墓前
高野山駅からバスで「一の橋」下車すぐ

趣 旨 満洲国軍官学校に学んで動乱の中生還したOBが満洲族、漢族、朝鮮族、白系ロシア、日本人の五族を慰霊する大祭です

会 長 後藤文夫氏(関防会会員)

連 絡 松永有策氏
☎090-9612-4104



海軍関係戦没者追悼式(大阪護国神社・6月1日)



中部方面総監邸「つつじを観る会」「宇宙つつじ」を中央にして堀口英利総監・奥様



阪神基地開隊62周年記念(5月11日)中央・三木呉総監、右・演野会長、高島阪基司令



三木呉総監より感謝状を受ける会長(5月1日)



大浦空幹学校長と演野会長(6月7日)



航空自衛隊奈良基地行進中の学生(6月7日)

南スーダン派遣施設隊



南スーダン派遣部隊(隊長・井川一佐以下401名)の無事帰還慰労会(6月21日)



宮本健也三佐より任務完遂の報告を受ける瀧野会長



左から左藤章防衛政務官、西村真悟、三宅博の各代議士 田母神元航空幕僚長 三木呉総監 角南中方幕僚長

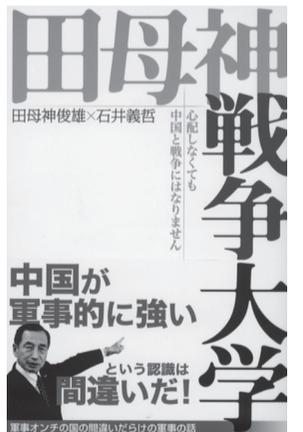
第17回定時総会



左から二人目高島阪基司令、三人目三好元陸将補



書物紹介



田母神戦争大学

田母神元航空幕僚長×石井元空将補の対談集
産経新聞出版、定価1200円

「軍事的に強い国は安全である」といって、通じがよいのか「リーダーが軍事を知らない国」

「終戦後、米軍(GHQ)に叱られて心を入れ替えた朝日新聞」米軍はアメリカの利益のために日本にいる。今のままで自衛隊は戦えない

「中国は今、日本と戦争はできない」米中2大軍事大国は間違っている。兵器の国産化なくして国家の自立なし

「挑発に乗るな」論は中国の術中に嵌まっている守りは航空自衛隊が世界一。情報戦に負けている日本

「間違いだらけの軍事の話」尖閣防衛隊と領空侵犯と集団的自衛権

「戦争できるほうが戦争にならない」NSCと特定秘密保護法。なぜ航空自衛隊は風

の目次である。傍若無人な中国に対して我々は恐怖を感じることが、それは軍事を知らないからだ。軍事的に中国と向き合っている自衛隊から見ると、少しも恐ろしいものではない、核抜き海空軍常備力では中国軍を凌駕しているのが現実

でいわずにアメリカ軍に於いては鏡袖一触の感じである。この強いアメリカが中国や北朝鮮の危険を言うのは国防総省の予算獲得のためだ

以上が『田母神戦争大学』の目次である。傍若無人な中国に対して我々は恐怖を感じることが、それは軍事を知らないからだ。軍事的に中国と向き合っている自衛隊から見ると、少しも恐ろしいものではない、核抜き海空軍常備力では中国軍を凌駕しているのが現実でいわずにアメリカ軍に於いては鏡袖一触の感じである。この強いアメリカが中国や北朝鮮の危険を言うのは国防総省の予算獲得のためだ

後編 集記

＊連日、集団的自衛権、是非かとおびただしい情報

が新聞テレビを通じて報じられている。連立を組む公明党が慎重な姿勢で、自民党はあの手の手で譲歩しているように感じられ、この号が印刷される頃は決着がついているだろう。平和の党・公明党と自己宣伝

しているが平和を維持するにはそれなりの武力を行使できる法整備が必要であることは自明の理だ。中国を始め隣国が頻りに挑発している現状を直視すれば解る事だ。

＊米米安保が片務条約であることは自他ともに認めることで、日本は米国の助けがないが米国は日本を守る、などあり得ない、片務条約のゆえんである。これを双務条約にするためには集団的自衛権行使が必要

めだと断っている。また兵器の国産化を訴えているが、これは防衛産業の裾野を広げて、この経済効果はアベノミクスに貢献すると思う。かつて仲摩元兵衛(海将防大10期3月に物故)が同じことを訴えていた事を思い出す。このような軍事知識を政治家は当然として我々国民も学ぶべきと推奨する。尚、田母神氏は弊会の特別顧問です。(新)

であり、その為に自民党安倍総理は頑張っている。志方氏が語る通り我が国には核が無い故だ。それにしても毎日テレビのコメントター、毎日新聞の論説委員が政治部長が知らないが、チョビ髭丸メガネの与田?某の「安倍総理は戦争をしたいのですかね」との発言に唾然とした。我が国の海空自衛隊のプロペラ機に音速を越える戦闘機で異常接近する、こんな狂人に対処する方策が集団的自衛権である。

＊木村三浩氏と志方氏に通底するのは濃淡はあれど対米自立論であろう。対米自立は我が国守層の悲願でもある。それにしても木村氏の行動力には瞠目する。また氏の提案する北方領土奪還方法は、書評で紹介した『田母神戦争大学』でも同意見として載っている。70年間膠着した状態を脱するには、まず端緒を作ることが先決ではないか。(新)

死んでたまるか!!

沖縄モズクと北海道産真昆布がニアシの純粋フコイダンダブル配合!!
生活習慣病が気になる方に...



【フコイダンZ】150粒(25~50日分)25,000円
お試し用30粒入り2,000円と
お徳用350粒入り50,000円もあります。

Beauty Health Laboratory
ビー・エイチ・ラボ
〒553-0006 大阪市福島区吉野4-19-10
TEL(06)6462-5820 FAX(06)6462-5824
携帯・PC共通 http://bh-labo.net

送迎車両の運行と管理は安心・安全の弊社へ!

人員送迎の
・乗用車・ワンボックス車
・マイクロバス・大型バス
運転請負の専門会社

社団法人 日本自家用自動車管理業協会(正会員)
株式会社 サンワ運行委託
フリーダイヤル 0120-77-5645
URL http://www.sanwa-drivers.co.jp/
一本社一
〒570-0032 大阪府守口市菊水通2-19-1(菊水第二ビル)
☎06(6993)5645 FAX06(6993)5644
神戸支社 ☎078(652)5645/京都営業所 ☎075(595)5645